

ブラジルデー 多彩に

文化芸大で イベント

日本とブラジルの外交関係樹立130周年を記念した国際交流イベント「ブラジルデー」が11月29日、静岡文化芸術大（浜松市中央区中央）で開かれた。両国の社会問題を考えるセミナーや演劇のほか、物販などの催しがあった。（服部剛士）

同大の武田淳准教授によるセミナー「コーヒーから見るブラジルと日本」は、2050年問題と日系社会の現在」では、世界中でコーヒー豆栽培のための森林伐採が問題となる中、ブラジルでは日本の技術支援で生産効率が上がり、農園の面積を減らし伐採を止めた事例が紹介された。武田准教授が顧問を務めるサークル「りとるあーす」はブラジル産のオーレングミを使用したオーレングミジュースのほか、原料や製品を公正な価格で取引する「フェアトレード」のコーヒー豆を使った飲み物を販売した。

日系人の苦悩 演劇で



日系人の苦悩を描いた演劇の一場面

高価だが、持続可能な社会のために必要だと思つ」と強調した。国際協力機構（JICA）のブラジルでの活動

や、同国で撮影されたコーヒー栽培の様子を紹介するパネル展示もあった。学外から招いた日系人グループは、1990年ごろにブラジルから来日した日系人の苦悩を描いた演劇「ブラジル×日本 融和の歩み」を披露した。ごみ出しのルールの違いや言葉の壁といった障壁を一つずつ乗り越え、地域に溶け込んでいく物語を展開した。



フェアトレードのコーヒーを売る「りとるあーす」の物販ブース＝いずれも浜松市中央区の静岡文化芸術大で

同大講師で、来日した少女役を演じた柳沢クリステイナさん（51）は「日本で暮らしている日系人は、皆で力を合わせて日本社会に適応する努力をしてきたと知ってほしい」と力を込めた。

コーヒー栽培知るセミナー